



素朴な質問から新たな発見

北星学園創立百周年記念館

矢 島 あづさ

横長の讚美歌

「この時代に横長の楽譜は珍しいですね」。記念館には、古い建築や歴史好きの方も来館されますが、明治時代の讚美歌に目を輝かせる方は初めてでした。お尋ねすると、世界各国の楽譜を研究されているとか。

からの女学生です。恐らく、この讚美歌は、スミス女学校時代の先輩あるいは宣教師から譲り受け、大切に使われていたのでしょう。

表紙の一部は破け、タイトルを読み取るのも難しい状態ですが、ニューヨーク州にある出版社 Biglow & Main Co. が1889年に発行した讚美歌「The Bright Array」であることがわかりました。この年は、創立者のスミス先生が米国へ一時帰国した年。翌年、ライラックの苗と一緒に持ち帰った讚美歌かも…と、つい妄想してしまっています。 <https://hymnary.org/> を検索してみてください。讚美歌の原文や翻訳の閲覧、視聴もできます。

スミス女学校時代の讚美歌



見返しに押された校印



その讚美歌に興味が湧き、見返しを見て驚きました。朱色の「スミス女学校印」が押されています。この校名で呼ばれていたのは、北星の発祥地である北1西6に校舎があった時代です。寄贈者は、北星女学校18回生の近藤武子さん。北4西1へ校地が移転し、北星女学校と改名されて

れ、答えられなかったことがあります。

昨年、別件で古い管理日記をめくっていると、その質問記録に目が留まりました。調べてみると、足立たかは、新渡戸稲造と同じ札幌農学校二期生・足立元太郎の長女。父は「イエスを信する者の契約」に署名した一人でした。

1889年2月13日付の北海道毎日新聞には、「大日本帝国憲法発布祝賀会」で唱歌を披露したスミス幼稚園児の中に足立たかの名もあります。



スミス幼稚園時代の足立たか

所蔵する古いアルバムには、写真をカバーする薄紙に、足立孝（鈴木貫太郎氏の未亡人）と記されていました。鈴木貫太郎は、ポツダム宣言を受け入れ、戦争を終結させようと奔走した42代首相です。しかも、たかは嫁ぐ前、昭和天皇が迪宮と呼ばれていた幼少期の4歳から10年間、養育係を務めた人物でした。

鳩を襲った猫に敵討ちをしようとした迪宮と弟の淳宮に、「尊い命を殺めることは許されない」と説いたり、日本民話と同じように聖書の物語を語り聞かせたりしたそうです。

スミス校務年誌へ和訳には「足立竹」と記録されていますが、直筆の原本を確認すると、「take」や「taka」とも読めます。来館者の素朴な質問から、こんな新たな発見もあるのです。